

大豆栽培は地下水位をコントロールできるほ場で栽培しましょう！

播種の適期を逃さないよう計画的な作業を

1 ほ場選定

(1) 好適な地下水位（40cm程度）を目標としたほ場の整備

大豆栽培において地下水位40cm程度が最も根張りが良く、根粒菌の発生も良好となり、好適な条件であることから、ほ場選定は次に留意して行う。

- ① 水田から転換した初年目や水田が隣接するような地下水位が高いほ場では、暗渠・明渠を掘り、排水改善を図る。
- ② 周囲が畑団地となっているような地下水位が低いほ場では、暗渠を操作して地下水位40cm程度の保持に努める。

<地下水位と栽培の影響>

地下水位	栽培への影響	ほ場の具体例
10cm 以上	出芽や初期生育に湿害を受けやすい	・水田からの転換初年目 ・隣接ほ場が水稻栽培
20cm 程度	収量が低下	
40cm 程度	良 好	—
50cm 以下	少雨の影響を受けやすい	・畑地化の団地内

(2) 暗渠の点検・整備

暗渠の効きを確認するとともに、降雨による停滞水が速やかに排水されるよう、明きよの点検や補修を随時行う。

(3) 枝豆栽培ほ場との隔離

周辺ほ場の耕作計画を把握し、枝豆が栽培されるほ場から50m以上離すこと。

<栽培管理ミニ情報>

大豆品種の特性 (秋田県大豆指針より)

品 種 名	早晚性	播種期 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	主莖長 (cm)	毛耳 の色	花色	子実 臍色	収量 (kg/10a)	特徴	留意点
リュウホウ	中	6/4	7/27	10/4	66	白	紫	黄	297	多収 良質	やせ地で短 茎になりや すい
あきたみどり	晩	5/24	7/26	10/11	78	褐	紫	黒	300	多収 良質 青大豆	ウイルス病 抵抗性無

※ 数値は秋田農試の過去の平均値

2 種子消毒

- 紫斑病、タネバエ、ネキリムシ類、アブラムシ類、フタスジヒメハムシの防除には、クルーザーMAXXの原液を乾燥種子1 kgに対して8mlを塗抹処理する。なお本剤は、鳥害(ハト、キジバト)対策にも有効である。
- クルーザーMAXXと根粒菌を処理する場合は、クルーザーMAXX塗抹処理、根粒菌粉衣の順に処理する。

薬 剤 名	施 用 量	施 用 時 期
クルーザーMAXX	原液 8ml/kg	播種前

3 耕起作業

(1) 砕土率を確認

- 出芽の良し悪しは、土のこなれ具合が大きく影響するので、耕起作業は畑の乾き具合を見計らいながら行い、砕土率(2cm以下の土塊の割合)が70%以上確保できるようにする。
- 降雨後の土壌水分が高い状態で耕起すると土のこなれが極端に悪くなり、砕土率が低下し、出芽率や除草剤の効果を低下させるので行わないこと。なお、一部の土壌では砕土率が高まると降雨で硬膜が形成され、透水性や通気性を損なう場合があるので注意すること。

(2) 深耕による根域の確保

- 生育の安定には根域の確保が重要であり、深耕を行い、耕深20~30cmを確保する。

4 播種作業

- 播種適期は、5月下旬~6月中旬であり、種子の準備や耕起作業は計画的に行うこと。
- 播種時期に応じた適正量と畦間、株間により、生育量を確保すること。
- 極端な早播きでの低温は出芽までの日数を長くし、害虫等の被害が多くなるので注意する。
- 播種期が遅れると生育量が小さく、子実重が低下するので、播種が遅れる場合は播種量を多くし、生育量を確保する必要がある。

<温度による発芽への影響>

温 度	発芽への影響
30~35℃	適 温
15℃以下	遅 れ
10℃以下	きわめて不良

<リュウホウの播種時期別最適播種量(10a)>

播種時期	播種粒数	播種量	畦間	株間
5月下旬 ~6月上旬	13,000~ 16,800粒	4.0~ 5.0kg	75cm 70cm	16~20cm 17~21cm
6月中旬	17,800 ~ 22,200粒	5.3 ~ 6.6kg	75cm 70cm 65cm	12~15cm 13~16cm 14~17cm
	6月下旬 ~ 7月上旬	25,000 ~ 33,300粒	7.5 ~ 10kg	75cm 70cm 65cm

5 気象情報

- 気象庁の1か月予報(4/12~5/11)によると
 - ・ 向こう1か月の気温は高く、期間のはじめはかなり高くなる見込み。
 - ・ 降水量は平年並か多く、日照時間は少ないでしょう。



産米改良協会 採種情報ページ

次号予定：技術情報は適宜行います。